



本誌争議が好評を博して以来編輯部内にも少し変化がありました。それは本誌前刊より引續き編輯の勞をとられてゐた田中君が家庭の御都合で退社せられたので新に編輯者を選んだ事でありました。本誌から編輯は合議制をとつて甲班(飯田、伊東、平山、小林)乙班(栗原、秋田、兒玉知久)が交互に特色ある編輯手腕を發揮する事になりました。此外に紫國社内には講演部を設け伊藤、久本、松本の三君が其衝に當られ、庶務會計は小野、荻、戸邊(賢)齋藤、石塚の五君が擔當せらるゝ事になりました。斯く新陣容は整へましたが、本誌の成長は一に誌友諸君の御援助の有無に掛つてゐる事ば申上る迄も御座いませぬ。よろしく御座候の程を乞ふまゝです。

本誌の投稿規定

- 一、投稿は主として紫國社會員より募る。
- 一、投稿の範圍は制限しない。論文、隨筆、研究、詩歌俳句等、何れを主とし何れを従とすることなく、何でも歓迎する。
- 一、投稿の取捨はすべて編輯委員の鑑識に任せられる。
- 一、投稿は二十語十行の原稿用紙へ楷書で書き、二枚以上に亘るときは綴ち合せていたゞきたい。
- 一、誌上の匿名は差支へないが、編輯委員までは必ず住所本名を御通知願ひたい。
- 一、投稿は、千葉縣野田町辨天、紫國社宛にとゞけられたい。
- 一、投稿は一切返戻しない。
- 一、投稿は毎月十日に締切り、なるべくその翌月號に紹介する。

六四

本誌は甲班が編輯致しました。争議が未だ解決に到らず陣中喚忙の裡に成りましたので多少の不満なくはありませぬ。唯本誌が最近野田町を中心として起りかけてゐる新精神運動を幾分反映してゐる事が一特徴をなすかとも考へられます。此新精神に豐かなる内容を盛り、純眞なる社會的效果を齎し、野田町を中心とする地方文化の發展に本誌が大に利用せらるゝならば此上もない幸であります。去る三月三日本誌の原稿募集を発表しますや、會社の社員諸君及一般町民諸君から多数の御寄稿を得ましたので編輯には其取扱に迷つた程でありました。本誌に採録致しました以外にも良き内容の原稿が多数ありましたが紙數の都合で掲載する事が出来ませんで甚だ残念に思つて居りますどうかこれに恐リず次號以下にも振つて御投稿下さる様御願ひ申上ります。

紫國の原稿用紙が印刷してあります。編輯校正の際に於ける勞苦を省くため、出来ればこの一定した用紙を用ひて頂きたい。二十語十行の半截型五十枚綴一冊費十五錢です。郵税は紫國社で負擔いたします。

昭和三年三月二十四日印刷  
昭和三年三月二十五日發行

非賣品

編輯兼發行者 東京府豊多摩郡落合町下落合七六〇 茂木和三郎  
印刷 東京市神田區三河町一丁目七番地 中村守雄  
印刷所 東京市神田區三河町一丁目七番地 東京旭印刷株式會社

發行所 千葉縣東葛飾郡野田町野田四一六番地 紫國社